



PERFECT SERIES

パーフェクトトップ Si

JIS A 6909 耐候形1種相当※
※該当規格を満たしています(社内試験)

F★★★★
ホルムアルデヒド放散等級

PERFECT TOP **Si**

1 液水性ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料

パーフェクトトップ® Si



NIPPON PAINT

Basic & New

ツヨク、 ウツクシク、 スマイヨク。 **PERFECT TOP**

1液水性ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候性塗料
パーフェクトトップ®Si

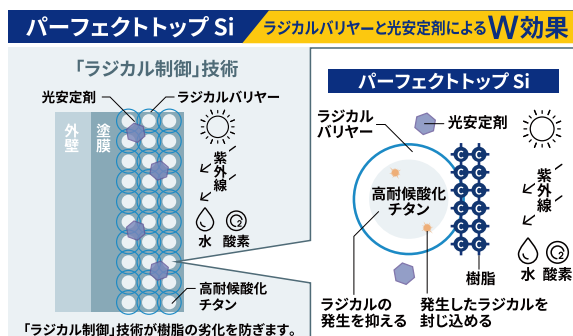
紫外線から住まいをまもる、
 ラジカル制御形塗料のパイオニア。

期待耐用年数※
最大15年



独自技術で紫外線から住まいをまもる、非常に優れた耐候性塗料

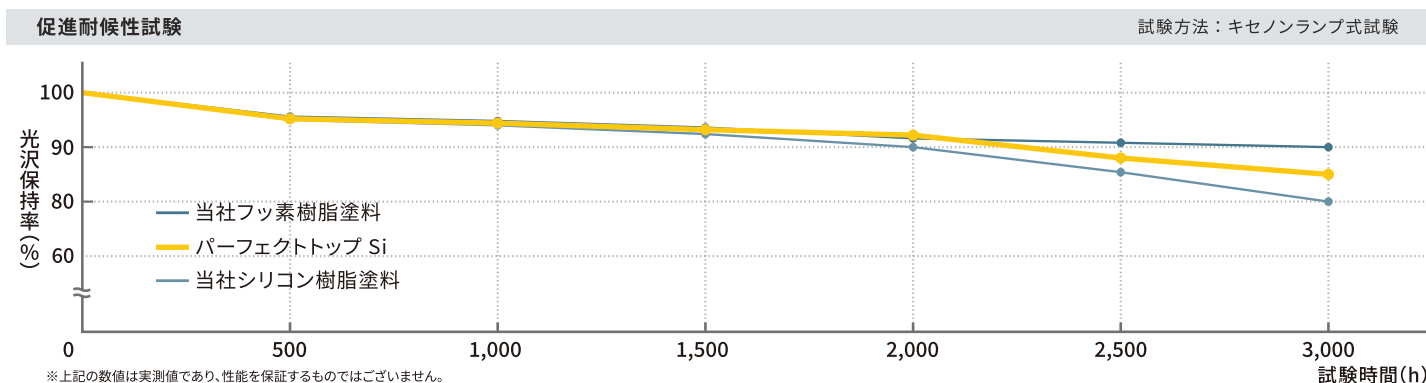
一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料の主成分である酸化チタン内からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、ラジカル発生を抑え、かつ発生したラジカルをバリアー内に封じ込める高耐候酸化チタンの活用技術を開発。さらに光安定剤の併用により、ダブル効果で優れた耐候性を発揮します。



パーフェクトトップ Si の主な特長

1. 優れた耐候性

紫外線による塗膜劣化対策として高耐候酸化チタンと光安定剤による、W効果のラジカル制御技術により、当社従来水性塗料との比較において一般シリコングレード(当社従来品比)を超える非常に優れた耐候性があります。耐候形1種に相当し、可とう形改修塗材Eの上塗りに最適です。



※期待耐用年数は塗膜劣化が進行し、塗膜寿命により下地保護機能が期待できなくなると予想される目安の時期であり、保証値ではありません。
 また、期待耐用年数は一般都市部住宅の東西面において標準的な環境・塗装条件で施工された場合を想定しています。その他詳細は当社ホームページをご確認ください。



■上塗り塗料の耐候性のグレードレベル



2. 美しいつや

特殊ポリマーが塗膜間の隙間を埋めるため、緻密でなめらかな塗膜形成が可能となり、優れた高光沢を実現できました。また、パーフェクトシリーズ下塗りとの組み合わせによりさらに美しい外観が得られます。ニーズに合わせたしっとりとした落ち着きのある3分つや、つや消しなどつやの調整も可能です。

3. 低汚染性

親水化技術により、雨だれ汚染に対して優れた効果を発揮します。

4. 防藻・防かび機能

防藻・防かび機能で、藻やかび菌の発生を抑制します。オプションで強力防かびを選択することも可能です。

5. 透湿性

高い透湿性により、結露から建物をまもります。

6. 抜群の作業感

ポリマーハイブリッド効果により、ローラーが軽く、ネタ伸ばしがスムーズに行えます。ローラーネタ含み性および転写性にも優れており、隠ぺい(かぶり)も良く、飛散がしにくい作業性を有しており、水性で非危険物です。

■ 塗料性状・荷姿・塗装方法

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率	使用量 (kg/㎡/回)	塗装方法
ニッペ パーフェクトトップ Si	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り つや消し	15kg 4kg	水道水	3～5%	0.11～0.17	は け ウールローラー エアレスブレイ

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定器・測定方法により増減します。
 ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
 ・つや調整品については、クラックのリスクがあるため、DANフィラーエポおよびDANタイル中塗の上には適用できません。

■ 適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
内外壁	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ	●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面 ●各種旧塗膜の上
	水性パーフェクトシーラー ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●無機やフッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
付帯部	パーフェクトプライマー	●付帯金属面 ●FRP ●木部 ●金属パネル外壁 ●垂鉛めっき ●アルミ ●各種旧塗膜の上

■ 乾燥時間

	5～10℃	23℃	30℃
指触乾燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	3時間以上	2時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20～0.45	4時間以上	水道水	3～8	ウールローラー
			0.50～0.90			1～5	砂骨ローラー
上塗り			0.11～0.17			2～5	タイルガン
上塗り	パーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	水道水	3～5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※パーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が速まるような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することをご推奨します（作業性や仕上がりへの向上を更に図ることができます）。

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20～0.40	3時間以上	水道水	2～5	はけ・ウールローラー
上塗り	パーフェクトトップ Si	2	0.11～0.17	3時間以上	水道水	3～5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	パーフェクトプライマー	1	0.14～0.16	4時間以上7日以内	塗料用 シンナーA	0～5	はけ・ウールローラー
			0.16～0.18			0～5	エアレススプレー
上塗り		2	0.11～0.17		水道水	3～5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※一般鉄部にはパーフェクトプライマー以外に、ハイボン20デクロ、ハイボンファインプライマーII、1液ハイボンファインデクロ、エスパワનエース、速乾Pヘルムゴンエコも使用できます。

※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なケレン後、パーフェクトプライマーで部分補修を行ってから下塗りしてください。

※上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状・素地の状態・気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまわってください。（縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります）

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。

施工上の要点と注意事項

※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

1. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
2. 蓄熱せやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85％以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
5. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
6. 過剰希釈をすると本来のつやが現れないおそれがありますので、規定の希釈量をまわってください。
7. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
8. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
9. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
10. 被塗物の構造、部位、塗装仕上がり形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れされない場合があります。
11. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタートをオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
12. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後拭き取して除去してください。
13. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
14. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
15. スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
16. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
17. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のにはけにできただけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
18. 動物にはけは、はけが固まったりタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
19. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
20. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
21. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
22. 外壁パネル面にもご使用いただけますが、平滑（フラット）面に塗装した場合、塗り継ぎむらなどの仕上がり不良に至る場合がありますのでご注意ください。
23. 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーIIIまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れが発生させることがあります。
24. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
25. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合には薬剤が付着しない様に塗装面の養生を行ってください。
26. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10％以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5％以下（ケット科学社製H1500シリーズ）コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
27. 表面のこぼれ、埃、フロロレシンス、レイタンスなどは除去し、目塗り、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
28. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンプライマー、ニッペ1材プライマー#200）などで処理してください。
29. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
30. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレシンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
31. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
32. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどは、油脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
33. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
34. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にに行い、火気厳禁にしてください。
35. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
36. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りに塗装することで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
37. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
38. 薄めすぎは隠れ力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
39. 上塗りに混ぜたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に混ぜた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
40. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
41. 濃霧や雨の日の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ（MK/DF/SI）を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
42. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
43. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面膜が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
44. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
45. 塗装方法により色相が多少変化する場合があるので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
46. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
47. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用にしてください。
48. 可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
49. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
50. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
51. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
52. 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
53. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
54. 内容物・容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
55. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート（SDS）をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2025 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

期待耐用年数について

こちらから
ご確認ください



最新情報・お役立ち情報発信中

日本ペイント
公式LINE



カタログNo.

NP-D121
NP250815T

2025年8月現在